

## 令和4年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(八基小学校)

## 平均正答率

## 1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
八基小	下回った	下回った	下回った	下回った	下回った	下回った
埼玉県	62.1	56.2	63.8	63.0	63.0	59.8

## 2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
八基小	5-C	5-A	7-C	5-C	4-B	6-C
埼玉県	6-C	6-A	7-A	5-B	6-C	6-A

## 3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
八基小		-1	2		-1	1
埼玉県		0	3		1	1

## 公表例

### 児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	小4		小5		小6	
		八基小	埼玉県	八基小	埼玉県	八基小	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	95	80	100	82	89	85
	・はっきりあいさつをすることができる	67	76	87	77	85	78
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができる	86	82	93	83	93	84
学習習慣	・勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える	43	42	60	48	48	52
	・勉強をするときは、最初に計画を立ててから始める	43	51	55	42	56	44
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	67	54	73	60	63	61
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	19	24	20	20	30	19
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	52	67	73	71	85	75
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	82	76	80	73	82	64
ICTの活用	・昨年度の国語の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた	24	19	27	18	26	20
	・昨年度の算数の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた	10	15	13	13	11	15
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	38	24	67	24	26	24
その他	・自分には、よいところがある	81	90	87	78	70	78
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	82	77	87	78	78	75
	・将来の夢や目標をもっている	86	87	93	87	89	82

#### 【質問紙分析】

- ・「脱いだ履き物のかかとをそろえる」、「相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができる」「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」「将来の夢や目標をもっている」割合が、県平均と比べて高いのは、6つの誓い週間、月間の取組をしているからだと考えられる。

## 公表例

- ・「地域の歴史や自然に関心をもっている」割合が県平均と比べて高いのは、学校教育目標をもとに、ふるさと教育に積極的に取り組んだからと考えられる。
- ・「昨年度の算数の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた」割合が県平均と比べて低いのは、算数による効果的なタブレットの活用方法について広まっていなかったことが原因と考えられる。そのため、タブレットの活用方法についての研修をもち、実践校で使用しているアプリケーションの導入を検討する必要がある。

### 伸びが見られた学級・教科での取組

#### 【学級】

- ・伸びがみられた学級では、学習面談で授業の様子や県学調の分析結果を報告し、学校と家庭が連携して取り組めた結果だと考えられる。(6年)

#### 【国語】

- ・伸びが見られた国語では、日々の授業の中で必ず音読、暗唱を取り入れ、言語能力を高める指導をしてきた結果と考えられる。(6年)
- ・伸びが見られた国語では、視写教材を購入し、朝学習で計画的に取り組んだことにより、書く力が身についた結果と考えられる。(6年)

#### 【算数】

- ・伸びが見られた算数では、児童を ABCD 層の 4 つのグループに分け、個に応じた指導を実践した結果と考えられる。(6年)

### 一人一人をより伸ばすための取組

#### 【国語】

- ・音読、暗唱、視写などの言語活動を朝の学習など全学年で計画的に取り組んでいけるようにする。

#### 【算数】

- ・少人数指導の工夫を図り、場合によっては3人体制、4人体制にして個に応じた指導を実現していく。

#### 【全教科】

- ・学習面談や懇談会、お便りなどで、クラスや児童の課題や伝えたり、相談したりする機会を積極的に設け、学校、地域が一体となって取り組めるようにする。